

「福島を訪問して」

今年の3月11日に東北で大規模な地震が起きました。

阪神大震災の時とは違い“津波”“原発”という大きな被害を伴いました。

当時、連日ニュースでは震災のことを大きく取り上げ、私たちは何度も同じ映像が流れるのを目にしていました。

黒く渦巻くような津波に流されていく巨大な船や車。

家の基礎だけが残った何ひとつない広大な大地をテレビ越しに眺めながら、

私の住む日本でこんな大災害が実際に起こったのかと身震いしました。

それはまるで映画かドラマをみているようで、あまりにも非現実的なものだったからです。

そんな私が今回の地震が実際に起こったのだと初めて感じたきっかけは、母がツイッターで見つけたつぶやき集でした。ある一人の学生が地震発生後にツイッターで投稿されていたつぶやきをまとめたものでした。

その中のいくつかを紹介します。

【韓国人の友達からさっききたメールより】

「世界唯一の核被爆国。大戦にも負けた。毎年台風がくる。地震だってくる。津波もくる。…小さい島国だけど、それでも立ち上がってきたのが日本なんじゃないの。頑張れ！超頑張れ。」

ちなみに僕は今泣いている。

【千葉の友達から】

避難所でおじいさんが「これからどうなるんだろう」と漏らしたとき、横にいた高校生くらの男の子が「大丈夫、大人になったら僕らが絶対に元に戻します」って背中さすって言ってたらしい。

大丈夫、未来あるよ。

これらの“つぶやき”より国境を越えた応援や同年代の優しさ、たくましさに触れることができ感動しました。

そしてあらためて「ああ本当にこれは日本に起こった出来事なんだ。」と実感しました。

私が23日に訪れたザベリオ学園がある郡山市は、見たところ復興作業は大方終わっていました。しかし先方の生徒会のみなさんと交流してる時にザベリオ学園長のお話のなかで「除染作業を行っているので放射線の数値は減り1日3時間は校庭に出られるようになりましたが、放射線は見えない敵です。油断できません。」というお言葉を聞き、心の復興はまだ終わっていないのだと感じました。

そこで「今、私たちができることは何ですか。一番何をして欲しいですか。」と尋ねてみました。学園長は「今も被災して苦しんでいる人たちがいることを忘れないでください。 ”忘れてないよ” のたった一言のメッセージがとても力になります。」とおっしゃっていました。そして被災してから心が折れそうな時に見て元気がでたという詩をみなさんにも伝えたいと思います。

作者である和合亮一さんは、詩人であり福島県の高校教諭でもあります。

「決意」 和合亮一 （わごう りょういち）

福島に風は吹く
福島に星は瞬く
福島に花は咲く
福島に生きる

福島を生きる
福島を愛する
福島をあきらめない
福島を信ずる
福島を歩く

福島の名を呼ぶ
福島を誇りに思う
福島を子どもたちに手渡す
福島を抱きしめる

福島と共に涙を流す

福島に泣く
福島が泣く
福島と泣く
福島で泣く

福島は私です
福島は故郷です
福島は人生です
福島はあなたです

福島は父と母です
福島は子どもたちです
福島は青空です
福島は雲です

福島を守る
福島を取り戻す
福島を手の中に
福島を生きる

福島に生きる
福島を生きる

福島で生きる
福島を生きる

福島で生きる
福島を生きる

自然がとても美しく穏やかだった文字通り「福の島」であった福島が大震災以来、原発の放射線で世界的に有名になってしまった。本当に悲しいことだと思います。

また今回の学校見学で中学生のあるクラスの目標が目に残りました。

「新生」新しく生きると書かれていました。その目標に込められた思いは何だったのでしょうか。

水が蛇口から出るありがたさ。布団の温かさ。家族が一緒にいることのできる幸せが一瞬にしてなくなる辛さや怖さは震災を直接経験したことのない私たちにとって想像を絶するものだったと思います。支援の形はひとつではありません。痛みや苦しみを分かち合うことはできなくてもこの大きな震災を「忘れないこと」「伝えること」が被災された方たちの「新生」を応援することにもつながると思いました。

今日、私たちは亡くなった私たちの大切な家族、友人、恩師のために集まっています。

亡くなった全ての貴い命は今、神様のもとで永遠の“なぐさめ”を受けているはずです。

福島やこの姫路で生きる私たちが、亡くなったかけがえのない人たちのことを忘れず

“思い”を伝えていくことができますように。